



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2023

1月27日号

192
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

JUMP!!!!



副会長 鈴木 雅 博

明けましておめでとうございます。

2023年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。皆様におかれましては新しい年をどのようにお迎えでしょうか。まずはいままなお続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により健康被害にあわれた皆様に心からお見舞いを申し上げます。また長期にわたり日夜、感染者への治療に取り組んでおられる皆様には心より感謝申し上げます。

2019年から始まったCOVID-19のパンデミックは、その勢いをさらに強め、昨年は日本国内で過去最大の感染者数を記録しましたが、ワクチンの普及などにより致死率は低下し、本格的な「ウィズ・コロナ」時代の在り方が模索された年でもありました。一方で、ロシアのウクライナ侵攻により、世界経済全体の成長が低迷し、エネルギーの供給不足や物価高の影響をまともに受けて、われわれの生活においても大きな課題となつてのしかかっており、個人の生活様式が大きく変化しているなか、価値観の多様化を前提に対応していくことも大変重要なテーマになってきています。

2023年は、卯年です。よく「今年の干支(えと)は」といいますが、干支は「十干(じっかん)」と「十二支(じゅうにし)」の組み合わせになります。今年の十干は「癸(き、みずのと)」、十二支は「卯(う)」となり、干支は「癸卯(みずのとう)」となります。

うさぎは跳躍する姿から「飛躍」・「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。癸卯の年にこれまでの努力が実を結び成長し飛躍する年となるよう大いに期待しているところであります。

また時代は持続可能な社会、多様性を重んじる社会へと変化してきており、これらの変化に対応したあらたな活動の展開を模索していかなければならないと考えております。働き方改革関連法案の一部が施行された「働き方改革」は、医療業界にも変化をもたらしており、医師の労働時間削減を目標に、他の医療従事者に業務を移管するタスクシフトの動きが広がっています。法改正により診療放射線技師の業務範囲も広がっており、これまで以上の業務を行う必要も出てくると思われます。一人一人が、その能力を存分に発揮することにより、新たな知見、価値を見出すことができるかもしれません。

今年が、会員の皆様にとって実り多く、健康で幸せな一年となりますことを心から祈念いたします。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、新年あけましておめでとうございます。ついこの間だったように思われる改元による令和も5年となり、本当に時の経つのが早く感じます。“光陰矢の如し”と言いますが、年齢が上がるほどより強く感じますよね。保健科学部も今年には開設してから3年目を迎えることとなり、3期生の入学試験の学校推薦型選抜の合格発表がつい先月（12月）にあったばかりです。3期生としてどのような学生さんらが入学してくるか、今から楽しみです。

さて、まずはこの学校推薦型選抜入試の結果についてお知らせします。学校推薦型選抜入試は福島県内の高等学校出身者のみが出願でき、診療放射線科学科の入学定員は10名以内となっています。志願倍率は2.40倍（令和4年度が2.40倍）であり、志願倍率は昨年度と同様でした。ちなみに、理学療法学科が1.69倍（同2.25倍）、作業療法学科が1.25倍（同1.44倍）、臨床検査学科が2.31倍（同2.13倍）でありました。試験科目は総合問題と面接であり、配点は総合問題が200点、面接が100点でした。これは、全ての学科が同様です。試験は12月3日と4日で行われ、診療放射線科学科については欠席者もなく全員が受験してくれました。合格発表は12月21日に行われ、診療放射線科学科は10名の合格者を発表いたしました。男女比は、ちょうど半分の男性5名と女性5名でした。合格者の皆さん、おめでとうございます。4月に元気に入學してくることをお待ちしております。

今回は、我々がやっている学生の進路支援について少しご紹介いたします。進路支援といいますが、就職はもちろんですが大学院への進学も含まれます。ほとんどの学生は就職か進学となりますが、学生によっては他の道を目指す学生もいるかもしれません。先生方が学生の時は、どのような進路支援（進路指導）を大学や専門学校から受けていましたでしょうか？進路支援の専門の職員さんがいましたでしょうか？あるいは、担任の先生がその任を担っていたでしょうか？一般的には、就職に関しては就職担当の教員がいて、その先生にどこから求人が来ているか、とかどのような求人内容なのか、等を相談しながら就職試験を受験して就職先を決めたような先生方が多いのではないのでしょうか？

私ども保健科学部は、まだ1期生が2年生ということもあって本格的な進路支援活動はこれから、というところです。保健科学部の中には学部運営に必要な様々な委員会が設置されていますが、その中に学生生活委員会というものがあり、その下部組織として進路支援部会というのがあって進路支援に関する事項を決めたり実行したりしています。この進路支援部会では学部として4学科全てにおける活動を管轄しておりますが、それとは別に学科毎に独自でも進路支援活動を行っています。本稿では、学部として現在行っている進路支援活動と、診療放射線科学科独自で行っている進路支援活動をご紹介します。

保健科学部として4学科の学生全員を対象とした進路支援活動として、「マイナビ」が大学に提供している就職支援講座を開講することを予定しています。この就職支援講座には、「医療系学生のための就活スタートアップ講座」、「マナー講座（就職活動）」、「求人情報の見方講座」、「履歴書・エントリーシート対策講座」、「面接対策講座」、「小論文対策講座」、「実習マナー講座」、「ストレス耐性を身につけるには」、「文章力養成講座」、「ロジカルシンキング講座」、「タイムマネジメント作成講座」、「トークン能力向上講座」、「リスニ

ング能力向上講座]、「SPI対策講座」など様々なものがあり、これらを学年進行に合わせて開講して学生に受講していただくことで就職支援をすることを目的としています。もちろん、教員らがこのような内容の講座などを学生向けに行っている大学など多いと思いますが、教員だけでは自ずと限界があるため、このような企業を活用することは学生にとっては有効であろうと考えています。もちろん、これらの講座を開講するにおいては事前にその資料を教員が見て内容の確認を行っており、企業色が強くないようにするとともに本学の実情に合わせた内容を学生に提供するようにしています。最初の講座として、「医療系学生のための就職活動スタートアップ講座」が2022年11月11日に開催されました。4学科全体で90%以上の学生さんの参加を得て、順調に就職支援活動が開始されました。今後も、3年生、4年生と学年進行に合わせた内容で講座を開講していく予定です。

診療放射線科学科独自の進路支援として、2年生を対象に「講演「先輩から聞く」」という講演会を2022年11月29日に行いました。一般的には卒業したOBやOGに来ていただいて後輩にお話しをいただくものですが、本学ではまだ卒業生がでておりませんので診療放射線技師の先輩ということで附属病院放射線部の石川先生、そして富士フィルムメディカルの今川先生にお越しいただき、病院や企業での仕事内容やその考え方、就職に必要なスキルや学生時代に行っておけばよかったこと、大学院のことなどをご自身のご経験に基づいて学生にわかりやすくお話しいただきました。(写真)



学生の反響はとても良く、お二人のお話を聞くことができ進路のことを考える上で本当に参考になったと講演後のアンケートで回答がありました。今後もこのようなお話しを聞かせて欲しい、もっと多くの人の話を聞きたいなど、学生からの更なる要望も多くありましたので、学生の進路支援として今後もこのような企画を続けていきたいと考えております。もしかすると先生方にも何らかのお手伝いをお願いする可能性もあると思いますので、その際は何とぞご協力いただけますと大変助かります。また、学年が上がっていきますので就職活動に絡めた病院見学などについても希望が出てくると思います。福島県内の病院への就職を希望している学生も多くおりますので、是非そのような学生に実際の仕事の現場を見せていただけるとありがたいです。お引き受けいただけることが可能な場合などは、久保にご連絡いただけますと大変助かります。

また、学生からの希望があった場合はご連絡差し上げることもあると思いますので、その際はご対応いただけますと幸いです。

このように、学生への様々な支援も大学の重要な役割です。我々教員が何をできるか、何を行う事が学生さんにとって有意義か、などを常に考えながら本年も学生と共に前に進んで参ります。先生方の引き続きのご指導・ご鞭撻のほど本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

～ 県会長 + JART地域理事 「オンレコ」 ～

1 「JART医療情報管理士分科会」

11月13日

今年度から担当になり、書類審査のためJART新事務所へ行きました。以前の様な無駄に大きい事務所よりコンパクトになっていました。

2 「第3回東北会長及び教育委員の合同会議」

11月18日

・ハイブリッド開催はメリットもありますが、労力と経費がかかります。東北地域は正会員3,000円ですが、他の地域学術大会は4,000-5,000円です。次年度からは4,000円に値上げを行います。

・「みちのくこまち」はJARTの以前の事業でしたが、現在は別に業務改善推進委員会となりました。他のモダリティ（CTとかMRI等）に助成がなく、「みちのくこまち」だけに助成は出来なくなりました。新たに「みちのくこまち乳腺まるごと勉強会」として別組織になり活動します。

3 「県第3回執行委員会及び第3回理事会」

12月2日

来年度の事業計画等を議論しました。各施設への本の配布も12月中か遅くとも1月中には皆さんの施設に届くと思います。分科会への助成は来年度から2万円から3万円に値上げします。

4 「JART臨時総会及び第5回理事会」

12月3日

臨時総会では、鈴木副会長が議長に立候補してくれました。定款について幾つかの改正があり賛成多数で可決されました。

理事会では、4月からの領収書が各自でJASTISからダウンロード出来る事になりました。私からは地域学術大会への助成を増やして欲しいとの要望を行いました。近畿地域からも賛同する意見をいただきました。ただ8地域が一律での値上げなので一筋縄では行きません。

5 「教育委員幹事会、分科会合同会議」

12月4日

両方ともにWeb参加を行いました。色々と課題がありますが、何とか進めて行きます。

6 「年末年始の市や税務署への申請」

以前は遊佐事務局長が長年に渡り行い私が引き継いでいましたが、事務員岩田さんへ引き継ぎを依頼しています。

委員会紹介

災害対策委員会の紹介

災害対策委員会

委員長 菅野 修一

災害対策委員会は、公益社団法人 福島県診療放射線技師会 委員会規程第8条（常設委員会）で「(7)原子力災害対策委員会」として設置されています。

上述からお分かりのとおり主な活動内容は、原子力災害が発生した場合を想定した活動訓練や研修、放射線被ばくに関する啓蒙活動などです。無論、県内並びに他県において原子力災害が発生すれば会員を派遣し、現地で活動することも想定しています。福島県放射線管理士部会と活動内容が重複する部分が多く、合同で研修内容を検討することが多いです。

訓練については、福島県が実施する原子力防災訓練に会員を毎回派遣しています。訓練では主に放射性物質の汚染検査（スクリーニング）を担当することが多いです。GMサーベイメータを用いて行うため、事前に研修会も開催しています。令和4年度には訓練等で着用できるベストを購入しました。蛍光グリーンのととても目立つ色合いですので、他のイベントでもご使用になれます。（写真）



啓蒙活動については、放射線被ばくに関するリスクコミュニケーションを柱に活動しています。2011年の福島第一原子力発電所事故後、特に福島県民にとっては関心が高まり、医療被ばく以外の被ばく相談にも対応しています。放射線管理士部会にも協力していただき、各種イベントの際には放射線被ばく相談や放射線診療に関する説明などを行っています。ただし、イベントへの参加については各地区協議会が主体となることが多いため、災害対策委員会が関与することは少ないです。

災害対策委員会は原子力災害への対応を主な活動としていますが、他の災害への対応も今後は検討しなければならないでしょう。日本診療放射線技師会には「災害支援認定診療放射線技師」の認定制度があり、原子力災害以外の災害にも対応できる診療放射線技師の育成を行っています。また、福島県立医科大学では災害医療と放射線被ばく医療について学べる社会人向けの大学院を開設しています。ご興味のある方はオープンキャンパスに一度参加してみたいはいかがでしょうか。そして、大学院を修了したのちは災害対策委員会とともに活動しましょう。

お知らせ

日放技開催の各種講習会、 参加費等の領収書発行について

会員情報システム（JARTIS）から会員本人による領収書発行が可能になりました。システム改修によるご自身での領収書発行は2022年4月1日以降の入金が対象です。2022年3月31日以前の入金については、対応しておりません。詳細は、JART 1月号14ページをご参照ください。

地区だより

会津地区

「第106回会津画像研究会」開催

令和4年12月22日(木)にWebにて開催され、会員26名、非会員5名の計31名の参加がありました。

今回の会津画像研究会は、「外科用Cアーム COREVISION 3Dを導入して」、「当院のO-arm術中イメージングシステムにおける使用経験」の2つの演題がありました。

演題①「外科用Cアーム COREVISION 3Dを導入して」竹田綜合病院 佐藤貴文氏より、竹田綜合病院では、2021年度統計で年間5,992件（外科用Cアームの使用件数792件）の手術件数などの病院紹介から始まり、スライドでのFUJIFILM社製 COREVISION 3D（FPD31×31cm、ワイヤレスフットペダル、タッチスクリーンの透視モード）の紹介では、従来の装置より視野の広さ、画像処理技術の向上により透視やDSAなどの画質が向上した。そして、X線管球冷却機構（Advanced Active Cooling）により管球の発熱による術中透視が使えなくなることがなくなり、3DCTモードの術中ナビゲーションシステム（Medtronic社製 Steal Station S8）では、後方椎体間固定術の使用によるスクリーなどの位置決め精度の向上、手術時間の短縮、被ばく低減が可能になったそうです。

演題②「当院のO-arm術中イメージングシステムにおける使用経験」福島県立医科大学会津医療センター 泉田健介氏より、O-arm 術中イメージングシステムとは、2D及び3D移動型術中イメージングシステムで会津医療センターでは、年間の使用件数は、90件以上で、主に脊椎の手術に使用されているそうです。今回は、後方椎体間固定術での使用経験をスライドや動画

をまじえて説明して頂き、画像データをナビゲーションシステムに送信することで、CTのような3D画像をリアルタイムにみて手術を行うことが出来るそうです。そのためには、アンテナの位置が重要とのことでした。使用利点としては、術後6か月の疼痛機能改善、術中の出血量の減少、スクリー刺入の正確性の向上、C-アーム単体使用と比べて術者の被ばく低減などが可能になったそうです。

今回の講演で術中イメージの進化と技師としての専門性が求められることを感じ、また術者の支援向上に繋がっていると思いました。

（平澤）

編集後記

会員の皆様には今年のお正月も新型コロナ感染のため大変苦勞をされたと思います。家族の中に受験生がいる方はご苦勞が続く時期ですがご自身の体調にも気を付けてください。久保先生のお話のように若い方の頑張りがすべての世代の希望になると思います。そして今年も技師会にご協力をお願いします。

（大井）